

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立厚木中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 佐藤 弘幸

学校教育目標			学校経営の方針	
知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成			・たくましく生きる力の育成　・確かな学力の育成　・思いやる力の育成	
今年度の重点目標				
「挑戦」 あきらめずに課題に向き合う　「共生」 認め合い、高め合い、学び合う　「創造」 お互いの個性を活かし、それを集めて大きな力を手に入れる				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
体育大会、栄光祭等の学校行事等への積極的な参加	1・2・3	各行事において縦割り活動を通じた集団作りの充実と、良き伝統の継承に努めた	内外からも高い評価を得る取組が展開できた。縦割り活動の効果が高く、良い伝統を引き継ぐ学校風土を継続できている。生徒・保護者共に93%の肯定的な評価を得ることができた。	生徒が主体的に企画する項目を大切に、行事内容の精選を進め、生徒の達成感を向上させるよう努める。
自分の命を大切にした行動、いじめや暴力を許さない行動をしている	2	「命」の授業、人権週間での活動やいじめ防止宣言を活用して望ましい学校風土の醸成に努めた	今年度は生徒の発案で、いじめ防止の取組を生活のQOLを高める活動に変換して展開したことで一時的な予防の取組が充実した。	取組が形骸化しないよう、生徒会活動に、校外の教育資源や学校運営協議会とのコラボレーションを模索する。
将来の夢または目標に向かう努力	1・3	指導と評価の一体化の校内研究を進め、生徒の授業意欲を高めるとともに、キャリア教育の充実に努めた	授業改善や評価に関する校内研究を精力的に進めてきたが、今年度はそれらをまとめることができた。キャリア教育は総合的な学習の時間と関連させる工夫が必要であると考えている。	学校運営協議会との協働での職業講話や、厚木高校の生徒による授業を組み入れた探究活動に年間を通して取り組む。
交通ルールを守り、事故や災害から身を守る	2	厚木中交通安全の日での事故防止啓発や避難訓練等の充実により安心・安全意識の向上に努めた	安全の日を中心に継続的に事故防止啓発を図った。今年度は交通ルールの遵守について97%の生徒が気をつけていると回答した。大きな交通事故は未然に防げている。	今後も厚木中交通安全の日を軸に、計画的・継続的に取組を行う。防犯ブザーの携帯について取組を推進する。
学校が楽しいと感じる	1・2・3	重点目標を浸透させ、生徒と教職員で共通の目標を持てるよう努めてきた。	今年度は86%生徒が肯定的な回答をしたが、この数年で数字の伸びはあまりない。コミュニケーション力を含めた経験が足りないことから、教育相談にかける時間の確保をさらに進める。	与えられたことは、それ以上の結果を返してくる生徒たちで頼もしいが、自らが「挑戦」する気持ちを育む取組の充実に努める。
うまくいかないこと・困ったことがあったときに、解決するまで粘り強く挑戦する	1	学校教育活動全般にわたり、「挑戦」に関するねらいを生徒・教員で共有して前向きに取り組んだ	教育活動に「挑戦」の要素を盛り込んで取り組み、生徒の87%が「挑戦」していると答えているが、目標を持っている生徒は67%にとどまることから、キャリア教育の推進が必要と考えている。	様々な教育活動の振り返りにおいて左記の視点を明確にすることや、外部評価を積極的に取り入れて、生徒のやる気を引き出す方略を考える。
困ったことや不安があるときに学校にいる大人に相談する	2	学級集団アセスメントの導入、グループエンカウンターによる授業で、生徒の自己肯定感の向上に努めた	学級集団アセスメントに加え、毎月の生活アンケートで、生徒の生活状況をチェックしているが、15%程度の生徒が相談できないと答えていることから、さらなる取組の工夫が必要である。	困ったことがあった時に「誰にも相談しない」という生徒の割合を減らせるよう、教育相談の時間設定等の充実を図る。
厚木中学校は、GIGAスクールに関して、順調に取り組んでいる	1	日常的にICTを活用する授業実践を展開した	ICTの授業に意欲的かについては、94%の生徒が肯定的な回答しており、年々伸びてきている。動作環境にはまだ制限があるので、今後の充実を要望したい。	授業内での生徒の変容をICTの活用で記録し、主体的に学習に取り組む態度の評価に生かす方略を考える。
部活動への参加	1・3	壮行会や表彰などを通して、活躍を学校全体で共有して、参加・所属意欲を高めた	活動によく集中できており、運動・文化を問わず、すべての部活動で活躍が顕著な年になった。部活動に対する生徒・保護者の期待と働き方改革の両立が難しい。	引き続き、持続可能な部活動の在り方を模索する。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
今年度についても厚木中らしい学校風土の育成についてはお褒めの言葉を多数いただいた。厚木中が掲げる3つの教育指導の重点を、生徒と教職員でしっかり共有し、取組のPDCAサイクルが回せるようスタートできたが、保護者の約20%には未だ伝わっていないとの回答があることから、さらなる積極的な発信が必要と思われる。				
今年度の学校経営のまとめ　・　次年度への改善の方針				
さらなる学力の向上と質の高い教育活動を展開したいが、各方面の活躍に対してマンパワーが不足している状況が明らかになってきた。今後は選択と集中を念頭に入れて持続可能な教育活動を模索する必要がある。また、生徒同士のコミュニケーション不足からくる課題は、日常の生徒指導に散見されることから、スキルアップを図る取組を意図的に入れる必要がある。				